

調査4 景気が改善あるいは悪化している要因についての主な意見

《改善要因》

- 国の予算執行がスムーズ。オリンピックに向けて警備対応の予算が動いている。(製造業)
- 既存客からの受注増。(製造業)
- スマホや自動車自動運転等で必要となるセンサー関連を中心に半導体業界が好調に推移している。(製造業)
- 自動車、設備投資関連を中心に需要旺盛。上期もこの傾向が継続する見込み。(製造業)
- 仕事量が増加。(建設業)
- 倉庫の賃貸は、空かずに順調に推移している。(不動産業)
- オリンピックの関係で景気が良くなってきている。各学校の特別予算がつき購入も良くなってきている。(卸売業)
- 受注数が増加。(小売業)
- 三越多摩センターの撤退により、進物やおせちの受注が増加した。(小売業)
- 電動自転車販売の増加。(小売業)
- 人員不足による受注金額(単価)の上昇(サービス業)

《悪化要因》

- 受注増であるが作業可能な人材不足。作業単価減。(製造業)
- 多品種、少ロット生産。(製造業)
- EV化(電気自動車)の影響に不安感あり。(製造業)
- 人材不足によって仕事を断念している。外注費の高騰で採算ベースにのらない。人材の確保が難しい。(建設業)
- オリンピック関連で資材・人材の不足、仕入値の高騰。(建設業)
- 仕入材にかかる運賃が上昇、資材の高騰、よって受注の減少になる。(建設業)
- 入居者の要望に応えるためには修繕費がかかり対応が難しい。(不動産業)
- 人件費の高騰による利益の減少と景気の悪化での売上減少。(サービス業)
- 同業者の増加。(サービス業)
- 高齢の為、新規営業はできない。(サービス業)

《悪化要因》

- 8～10月にかけて雨期が長かったため来店客数が減少。(サービス業)
 - 一部の商品群で多少高額品が売れ行き好調の兆しが見られるが総合スーパーの業績不振が著しい。一方で、ディスカウントストアやドラッグストアの伸びが見られる。その進展により既存の中小スーパーは苦戦。利益率の低下が懸念される。(卸売業)
- 景気は業種により格差がある。消費者には厳しい状況で衣料品に回す余裕がないように思う。(卸売業)
- 中国環境法の実施により、汚染ルールが厳しくなり中国の工場生産量が大幅減少になった。(卸売業)
- 海外進出をした取引先が材料の現地調達により売上が減少。工場稼働率が下がっているため部品交換メンテナンスの回数も減っている。営業力(マンパワー)不足による新規開拓が無い。(卸売業)
- 人件費、材料費、電気料金の上昇で利益を圧迫している。(飲食業)
- 野菜が以上に高い。競合が激しい。(飲食業)
- 仕入価格高騰による利益減少。エネルギーの自由化による売上減少。人口減による売上減少。(小売業)
- 仕入単価の値上がりや配送業者の運賃値上げで利益が減少している。(小売業)
- 物余りの時代の為、欲しいものしか買わなくなっている。(小売業)
- 円高、ウオン安、日韓関係の悪化(小売業)
- 天候不順によって売上が減少している。(小売業)
- 三越多摩センターの撤退で集客ダウン。東京都最低賃金アップで厳しい状況になっている。(小売業)
- 今後の消費税増税時の対応に苦慮している。(小売業)
- 物価上昇によって、消費者の節約志向が強い。仕入値の上昇による利益の減少。(小売業)
- 人材不足による利益の減少。(運送業)
- 従業員不足と労働時間(残業)の管理により売上減少。燃料価格が上がり採算が悪くなってしまった。(運送業)